

森林文化デザイン商品化プロジェクト

概要

- ・人口約3,500人、総面積の9割が森林。人口減少により地域産業衰退や後継者不足など深刻化。
- ・比較優位である森林に携わる産業による雇用拡大や地域経済の活性化が望まれるが、木製品等の販路拡大や仕事の魅力向上が課題。
- ・地域最大の資源を活かし、地域に根付く「森林文化」を活かした売れる製品づくりを実施。

事業の内容

事業の内容

森林に携わる仕事や暮らし、イベント等から生まれた森林文化を活かし、デザイナーやカラーコーディネーター、建築家など、デザイン等の専門家と連携した製品開発やPR、その背景となる森林に関する産業や地域そのもののプロモーションを実施。

総事業費

10.7百万円

ポイント

森林文化をデザインで製品に体现

木製品のデザインコンペ「木のデザイン公募展」の入賞作品、住民とともに決定した下川の森のシンボルカラー「Shimokawa Green」、巨樹「七尺ニレ」、地域材を活用した環境に配慮した高機能な住宅「森とイエプロジェクト」など地域固有の風土の中で育まれた「森林文化」を活用。

事業の成果

森林文化を活かした製品の開発やPR、その背景となる森林に関する産業や地域そのもののプロモーションを実施したことで、雇用機会の創出や森林ブランド、地域ブランドの構築、移住定住へのアプローチなど、今後の展開に大きな期待が持てる。

北海道下川町



地域性豊かな森林文化を活用し、



デザイン等の専門家と連携



地域プロモーションの実施



雇用拡大、森林ブランドの創出、移住等の推進を図る